

「土と火と米」の文化を海外で発信

蒼築舎株式会社 代表取締役 松本憲司

小生は左官職人であります。小生が現代の食文化や住文化での環境への違和感に気付き始めたのが、25年ほど前。

電化製品の普及により、料理のほとんどが簡略化という道を進み、数分数秒で食事が完成することが、可能になりました。他にも、暖房器具も普及が進み快適性、安全性が優位になり、石油、ガス、電気ファンヒーターの時代へと変わってきました。双方とも、革新的な進化により、より簡単に安全に進化を遂げたようです。もちろん、住宅環境の変化も著しく、バリアフリーの時代へ。しかし、私にはそうは思えないのです。

土間が無くなり、段差のない生活が始まることにより、快適ではありますが、健康面ではどうでしょうか。私自身も小さな段差でつまずいたり。階段を上ってゆくと足の疲れを感じたりと。台所もキッチンという言い方（かまど）に変わり、竈から電気、ガス炊飯器へ変わりました。生産メーカー製品の完成目標は、無くなった「かまど炊き」を目指され、「火」の见えない生活へ。もちろん、暖房器具も同じように変化してきました。

地球には地面を覆う「土」が有り、この中に住まう微生物から植物を作り、生命が宿ります。他にもこの「土」の役目は重大で、生活に必要な火の装置「竈」を作れたり、食器が作れたり素晴らしい素材なのです。今では見かけられなくなった「土壁」もそうです。空気中の湿度を吸って、調湿装置としての「機能」やホルムアルデヒドのような人体に影響を与える物質が飛散しても、土自身が備えている、多孔質な穴が吸着固定して、掃出させない「機能」やアンモニア臭のような嫌な臭いを吸着して、無臭にしてくれたり、空気清浄機としての機能があるのです。それも、「電気料金」は不要。そして、最大の利点は、要らなくなり処分する場合には、「土壁(土)」は地表に返すことが出来、再利用する」ことも可能なのです。「土」を素材として生かした使い方を、考えることが重要なのです。

「左官職人」である私ができることは、地表にある「生土」を使い、日本壁や調理道具を現代の使い方に変化させたり、「土」の蓄熱「機能」を利用した使い方などを研究して、実践することなのです。無論、一人の力では不可能ですので、皆様からの新しいアイデアや協働も必要でしょう。

現在までに地元大学のプロダクトデザイン科と産学連携し、新商品の開発を行っております。2015年より海外でも発信するチャンスに恵まれ、特にイタリアでは、各地で日本壁の作り方を通じて「土と火と米の文化の継承」活動を行っており、現在のところ10回目のワークショップを開催し終えております。参加者の中にはイタリア国外から(スペイン、エストニア、スコットランド、モンゴルなど)のご参加者もあり各地の方々に発信しております。海外での活動を含め、伝え知っていただきたいことは、今の時代を今一度「検証し、見直」さなければいけません。

現在、頻繁に起こる異常な気象と想定外に生じる自然活動。もう一つは、人間が便利の優位さを先行したための汚染現象が進んでいます。このようなことにより現代の人が過去に経験したことのない人災をもたらすのです。災害後の姿は被災に遭われた方々が住める状態ではなくなり、ガレキが覆って、見るに無残な姿となります。一方では、海洋へのごみの投棄により、ごみが漂流着岸して、綺麗な海岸がゴミで覆われてしまっています。この中に含まれるプラスチックが自然の力により碎かれ、細くなり採取不能なマイクロプラスチックとして海洋汚染を引き起こし問題になっています。便利で早く、安くが引き起こした、哀れな姿なのです。

「土」の恩恵を今一度見直し、現代に取り入れ、「良環境時代」を構築しなければいけません。「土」を使い作物を育て、「土」を見直し住環境を変えて、未来を育てゆきたいのです。

(まつき けんじ)